

ブラジル：リオ・デ・ジャネイロ

はじめに

5月12日深夜にボゴタ空港を出発した我々は、一路リオ・デ・ジャネイロを目指す夜行便に搭乗した。約8時間余りのフライトでリオ・デ・ジャネイロに到着。空港での税関、入国審査は予想以上の時間が必要となった。

何とかブラジルに入国できたが、朝の通勤ラッシュと重なったため、市内のホテルに着くまで2時間以上の時間を費やすこととなり、この街の交通事情の悪さを痛感した。

総領事公邸では、高瀬寧総領事から、リオ・デ・ジャネイロの生活や諸課題、オリンピック・パラリンピック準備関係などの状況を伺い、その後オリンピック・パラリンピック関連施設を視察した。

次の日は、午前中にリオオリンピック・パラリンピック組織委員会（オリンピック・パラリンピックゲームの運営に責任を持つ組織）に赴き、アジェマール・サンクスト氏を中心として、準備関係の課題、進捗状況などを伺った。

その後、昼から午後にかけてリオオリンピック・パラリンピック公社（市役所側の代表者、市の組織の一つでオリンピック・パラリンピック運営の責任を持つ組織で州政府、連邦政府との調整役を担う）にて、運営についての準備状況を中心に、マルタ・タレス広報特別補佐官、セリーナ・カンペーロ機関関係部長、ベアトリス・ペイショト機関関係部補佐官、グラウテル・ロシヤ運営部長、アルバロ・バッホス運営部補佐官からお話を伺った。

以下の報告は、これらの方々から直接伺った内容に、視察や街中での我々の見聞きを加え総合的にまとめたものである。



<2016年リオオリンピックエンブレム>

訪問目的

最初の訪問地、コロンビアのボゴタの隣国にある、リオ・デ・ジャネイロ訪問の目的は、オリンピック・パラリンピック開催 2 年前のリオ・デ・ジャネイロの準備状況を知っておくこと。このことは、2020 年東京オリンピック・パラリンピック開催 2 年前時点での比較ができるようにするとともに、今後の準備状況の進捗の参考にするためにほかならなかった。準備の進捗状況に懸念が示されているリオ・デ・ジャネイロの 2 年前の状況を熟知しておくことは、2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会準備の時点での準備遅れなどに的確な提言につなげることができるであろうと考えたのである。

筆者は、1996 年に開催されたアトランタオリンピックの時、民間企業にてオリンピックコンピュータシステムの有事の時の交渉要員として準備期間から本番中、そして撤退まで現地で過ごした経験がある。特段有事は起こらず、約 3 か月近く、オリンピック会場周辺に滞在していたことで、開催準備と本番を目の当たりにしている。

また、短期間であるが、ロンドンオリンピック・パラリンピックも視察した。



<リオオリンピック・パラリンピック組織委員会で説明を聞く>

リオ・デ・ジャネイロの概要

1500年4月22日ポルトガル人ペドロ・カブラルがブラジルの東北部に漂着してヨーロッパとの関係が始まった。ブラジルという国名は、染料となる樹木として、当時ヨーロッパで珍重されたパウ・ブラジルがこの国に繁茂していたことに由来するとのことである。

国土面積は、851万km²で日本の約23倍、人口は2億人（2013年、世界人口白書）。リオ・デ・ジャネイロ市の人口は643万人で、リオ・デ・ジャネイロ州の州都であり、サンパウロに次ぐブラジル第2の大都市である。リオ・デ・ジャネイロ州の人口は1,640万人、面積は43,910km²で、ブラジル全体の0.5%、東京の20倍。人口密度は、378人/km²である。なお、移民の子孫にあたる日系人は約15,000人とされている。

1822年ポルトガルより独立。首都は1808年から約150年にわたりリオ・デ・ジャネイロであったが、1960年ブラジル中央高原のブラジリアに遷都された。気候は、沿岸部では熱帯海洋性気候で夏季(12月～3月)は極めて高温多湿である。

オリンピック・パラリンピックが開催される8月は、最高気温が26度、最低気温が19度、降水量も少なく、薄手のセーターやカーデガンが必要なくらいの過ごし易い気候である。筆者の訪問時は、5月中旬であったが、上着は必要ない。長袖のワイシャツで丁度よいといった感じであった。



<大使館の職員と。(中央が高瀬総領事)>

課題として挙げられるのが治安状況である。ブラジルの経済は安定しているものの、市内の各地域にはファベラと呼ばれるスラム街（低所得者層の集団密集地）が存在し、拳銃、麻薬を中心とする薬物が広く蔓延しており、治安は憂慮すべき状況にあるとのこと。

リオ・デ・ジャネイロの勝因

2016年オリンピック・パラリンピックの立候補都市への評価報告書では、リオ・デ・ジャネイロ市に対し、政府主導による招致活動や世論の強力な支持等が評価された。

また、セキュリティについては、課題とされつつも、近年の地域ぐるみの取り組みについて一定の評価をされ、これまでの努力や今後の改善に期待する内容となっている。



＜リオオリンピック・パラリンピック公社にて説明を聞く＞

また、主要な招致関係機関から提供された情報やプレゼンテーションの質について4都市の中でリオ・デ・ジャネイロが一番高い評価「非常に質が高い」を受けている。ちなみに、東京、シカゴについては「質が高い」マドリードは「質にばらつきあり」と評価されている。

84.5%とマドリードに次ぐ高い市民の支持率があり、世界で最も若者が多い国であるブラジル、その若者を巻き込む大会として「情熱を楽しむ大会」を提唱したのも勝因の一つであろうと言われている。

南米初のオリンピック・パラリンピック開催に向けて大統領が精力的に外交活動を展開するなど、政府が全面的に支援し、財政も保証することをブラジル中央銀行総裁も、プレゼンテーションで登壇し力説した。

リオ・デ・ジャネイロは 2007 年にパンアメリカン大会を開いた実績を強調。会場は既存 18、新設 9、仮設 7、サッカーの 2014 年ワールドカップ開催も当時決定しており、ワールドカップ後に建設が必要な競技会場は 3 割未満であることも高い評価となったことなどが勝因と言えるところである。

一方、宿泊施設の確保や効率的な輸送計画等が課題とされたが、南米初となるオリンピック・パラリンピック開催に伴うインフラ整備が街の「遺産」として恒久的に残ると言及されている。

リオ・デ・ジャネイロ大会の計画

2016 年リオ・デ・ジャネイロオリンピック・パラリンピックは、4 つのエリアで開催される。

① マラカナ・エリア

まず、メインスタジアムとなるマラカナスタジアムがあるマラカナ・エリア。

このマラカナスタジアムでは、開会式などの式典、サッカー。J. アヴランジュ・オリンピックスタジアムでは、陸上競技、マラカナンジーヨではバレーボール、リオのカーニバルのパレードコンテスト会場として有名なサンボードロモはアーチェリー、マラソンのフィニッシュ地点にもなる。



<サンボードロモ>

② コパカバーナ・エリア

広いビーチで有名なコパカバーナ・エリア、ここでは、トライアスロン、ビーチバレー、自転車ロードレース、カヌースプリント、セーリング、ボートが行われる。



<コパカバーナ・ビーチ>



<コパカバーナ・ビーチ沿いには自転車専用道路も整備>

③ バッハ・エリア

選手村が作られ、プレスセンターも整備されるバッハ・エリアでは、マリアリンク水泳センターにて飛び込み、シンクロナイズドスイミング、オリンピックアクアティックスタジアムにて競泳、水球、テニススタジアムにてテニス、カリオカアリーナ1・2・3とフューチャーアリーナで柔道、テコンドー、レスリング、ハンドボール、リオセントロにてボクシング、卓球、バドミントン、ウエイトリフティング、リオオリンピックアリーナで体操が行われる。



<マラカナスタジアム>

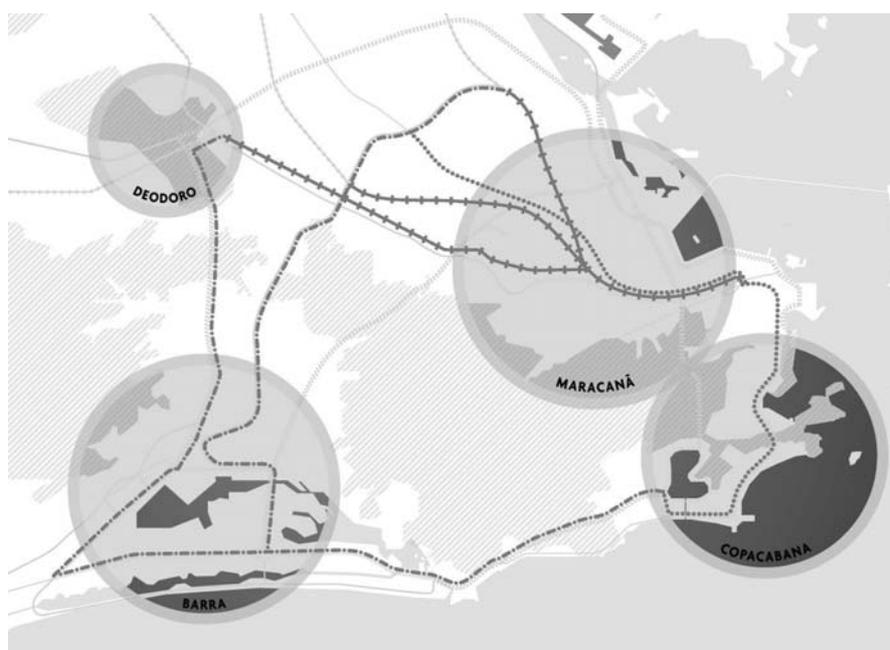
④ デオドーロ・エリア

最後はデオドーロ・エリアで、デオドーロユースアリーナにてフェンシング、オリンピックシューティングセンターにて射撃、エクストリアンセンターで馬術、デオドーロスタジアムにて近代五種、BMXセンターで自転車、マウンテンバイクトラックでマウンテンバイク、ホワイトウォータースタジアムにてカ

ヌースラロームが行われる。

この4つのエリアは半径25km圏に存在する。

(会場名や競技名については、2014年11月現在、リオオリンピック・パラリンピック組織委員会の最新情報を記載)



<オリンピック会場の配置予定図（リオ・デ・ジャネイロ立候補ファイル）>

オリンピック・パラリンピック開催までの課題への対応状況

開催までの課題として開催都市決定当初から指摘されていたのは、治安、宿泊施設の不足、交通アクセスである。

①治安対策

リオオリンピック・パラリンピック公社では、治安対策についても伺った。治安に関しては、国と州政府が責任を持って解決するとのことである。

現在、生物兵器、化学兵器、核兵器を使用したテロ対策を進めており、高度に充実した治安対策が実施されるとのことである。

リオ・デ・ジャネイロ市内全域に点在するファベーラと呼ばれるスラムの数は、1,000箇所程度存在し、リオ・デ・ジャネイロ市の人口の6分の1にあたる100万人以上がファベーラに住んでおり、麻薬組織や犯罪組織が活動するなど犯

罪の温床になっている。

治安当局は、2009 年以降、軍や警察により個々のファベエラを制圧して麻薬組織を追放し、日本の交番をモデルにした拠点を置く戦術を展開するなどして治安回復に努めてきた。（日本の交番で 1 カ月間研修を積んだ警察官もいるとのことである。）

リオ・デ・ジャネイロ州政府の統計によると、リオ・デ・ジャネイロ市内の殺人事件は 2009 年の 2,155 件から 2012 年には 1,209 件へと 4 割減少したとのことである。

また、警察官の数を 2009 年の 3 万 6 千人からオリンピック・パラリンピック開催までに 6 万人に増員する計画もある。

一方で麻薬組織を追放した結果、OB を含む警察官らによる民兵組織が勢力を伸ばし麻薬組織に代わって台頭してきている現状や、2014 年になってリオ・デ・ジャネイロの治安が再び悪化し、ファベエラでの抗争や犯罪が目立ってきているとの指摘もある。



<工事が進むバツハエリア>

②宿泊施設

宿泊施設の不足について、リオオリンピック・パラリンピック組織委員会で

伺ったところによると、立候補ファイルではホテルの新設や拡張に加え、港に停泊させた船舶によって約5万室を確保する計画になっている。

これは、港に豪華客船を停泊させ、臨時ホテルとして使用するものである。しかしながら、港の整備の問題などにより船舶への宿泊が可能かどうか疑問視する声が出始めているとのことである。

さらに、現状で3万1,500室余りの客室は16年までには1万室が増設される予定であるが、オリンピック・パラリンピック期間中の訪問者が50万人と見込まれることから、客船などにより計画通りの部屋数が確保できたとしても、絶対数がまだまだ足りないとの指摘もある。

これに対して、組織委員会の方々は、周辺州に泊まる人も多く、客船の提供により何とか克服できると考えているとのことであった。

実際、リオ・デ・ジャネイロ州では、減税政策によりホテル業界が大きく伸びており、新しいホテルは、2010年までに年平均1軒できていたが、2010年から2016年までに85軒の新しい四つ星ホテルができるとのことである。

③交通アクセス

交通アクセスについては、まず、空港は、民営化されたことにより大きく改善され、ほとんど問題はないであろうとのことである。しかし、リオ・デ・ジャネイロには、空路だけではなく、車や電車といった陸路からも多くの人があると予想される。今回のリオ・デ・ジャネイロ大会の競技会場は、市内4つの地域に分かれており、およ



<交通渋滞が激しい（ウィンザープラザホテル周辺）>

そ半径 25km 圏内に配置されており、2016 年に立候補した他の都市(東京、シカゴ、マドリッド)の計画での競技会場の配置がおよそ半径 10km 圏内以下であったのと比べると広範囲に分散していると言える。地下鉄も現在のところそれほど整備できている訳ではない。

車、電車、など陸路の交通機関とのアクセスも悪い。総じて、リオ・デ・ジャネイロの公共交通は整備されているとは言い難い。しかしながら、この交通関係の課題が、このオリンピックを契機に改善することは、将来のリオ・デ・ジャネイロにとってすばらしい遺産となるであろう。少し遅れてはいるものの、地下鉄やBRTの建設を進めている。



＜工事中の選手村＞

今は、街の端から端へ行くのに 3 時間かかるが、オリンピック・パラリンピック開催時には 1.5 時間で行けるだろう、とサンクストリオオリンピック・パラリンピック組織委員は述べられた。

また、この課題は、リオオリンピック・パラリンピック公社でも話題に上り、今までのリオ・デ・ジャネイロの公共交通を一新する劇的な改善が実現されようとしている。それは、BRT、湾岸地域でのLRT整備に加え、地下鉄 4 号線の建設も行われており、全て順調に整備されつつある、とバッホス運営部補佐官は応えられた。さらに、選手専用レーンの建設も行う予定であるとのことであった。また、公共交通のバリアフリーについてもとことん追求していくと

のことであった。



＜完成した水泳競技場＞

しかし、話の途中で、選手村から J. アベランジェ・オリンピックスタジアムに行くには少し問題があるとの認識も示された。実際、我々も、バッハ・エリアからマラカナ・エリアまで車で 2 時間以上かかっている。さらにバッハ・エリアからコパカバーナ・エリアには 3 時間かかっている。ただし、この間は、地下鉄建設などの道路整備が至る所で行われており、そのために発生した渋滞が、これほど時間がかかった要因となっている。新施設整備完成後のスムーズな交通の流れを期待したい。

このように、整備に関しては、地下鉄 1 路線の延伸や専用レーンを走るバス路線（BRT）の新設などが計画されているが、地下鉄工事の遅れなどにより交通網の完成が 2015 年度末で運用が 2016 年に始まる予定であることから、大会の運営面が懸念されている。

最近の課題

最近話題となっている課題として、社会改革を求めるデモの増加、大会予算の増加、準備作業の遅れがある。

①デモの増加

ブラジルでは、2013年6月に発生した反政府デモが断続的に続いており、リオ・デ・ジャネイロでも発生している。デモ隊は、政治家の汚職撲滅、医療改革、教育改革など様々な政策要求実現のために、2014年ワールドカップや2016年リオオリンピック・パラリンピック開催を無駄な支出として反対しており、大会運営への影響が懸念されている。最近では、警察官や航空会社の社員までもが大規模なストライキを検討しているとのこと。賃上げなどの待遇改善に加え、人員不足の解消なども求めている模様である。

②大会予算

大会予算については、2014年1月にリオオリンピック・パラリンピック組織委員会が、2008年に想定した42億リアルから70億リアル(約3,125億円)に増加する見通しを発表した。

大会運営費は56億リアル(約2,150億円)。ロンドンオリンピック・パラリンピックの22億ポンド(約2,770億円)より少なく見積もっている。

当初は、このうち24%を政府補助金などの公的資金、31%をIOCからの分配金、45%をスポンサー収入でまかなう予定だった。

ところが、日産自動車をはじめとする国際的に有名な企業や成長著しい国内企業などとスポンサー契約が次々に結ばれたため政府の補助金が不要になった。

「公的資金の計画は、資金確保を心配したIOCからの指示だったが、杞憂に終わった」と組織委員会は考えているとのことである。

ただし、インフラ整備も含む総予算は確定できていない。ロンドンオリンピック・パラリンピックは90億ポンド(約1兆1,000億円)まで膨れ上がっている。リオ・デ・ジャネイロ市は2014年4月に、インフラ整備などを含めた支出総額が367億リアル(約1兆6,700億円)に上っており、開催までにまだ増える可能性があるとして発表した。

開催が決定した2009年当時は支出総額289億リアルと想定されていた。リオ・デ・ジャネイロでは、一部の競技施設の建設計画が見直されたり、施設構造上の不備から追加工事が必要になる等して、設備予算が大幅に拡大している。地元メディアからは、「予算が最終的にどれくらいになるのか、想像もつかない」

との指摘も出ている。

③準備作業の遅れ

準備作業の遅れについては、2014年4月29日に国際オリンピック委員会のジョン・コーツ副会長が、リオオリンピック・パラリンピックの準備状況は私が今まで経験した中で最悪、2004年のアテネ大会より悪い、とコメントしたことが報道された。



<完成しているバスケットボール会場>

また、英国のロンドンイブニングスタンダード紙は情報筋の話として、開催2年前における準備状況は2004年アテネが40%、2012年ロンドンが60%、リオ・デ・ジャネイロは10%としている。具体的な準備の遅れとしては、デオドーロ・エリアの工事が始まっていない、ゴルフ会場の芝の育成が始まっていない、セーリング会場となるグアナバラ湾の水質汚濁などがある。

この状況を受けて2014年4月に国際オリンピック委員会のバッハ会長は、整備の遅れを取り戻すために、特命の作業グループを現地に設置することを明らかにした。

一方で、デオドーロ・エリアの整備の問題として、現地は何もない更地状態、ゴルフ場は芝が貼られていない状況であった。工事自体は始まっていないが、

入札は終わっているとアルバロ・バッホス運営部補佐官は説明された。バッホス補佐官によれば、4月17日に入札が行われ、12月までに工事が始まるとのこと。オリンピック・パラリンピック招致に成功してから5年以上経ってからの建設工事着工となる。

オリンピック・パラリンピック開催に向けたその他の施策

- ・リオ・デ・ジャネイロ市内の公立小学校では、小学校6年生から英語教育が始まっていた。しかし、オリンピック・パラリンピック開催の決定を受け、全ての公立小学校1年生時からの英語教育が開始されている。
- ・街の美化推進のため、ごみを捨てない運動として、「ごみのポイ捨て禁止条例」を制定、さらにこの条例に基づいた罰金の徴収を始めた。罰金額はごみの大きさにより異なる。タバコの吸い殻や空き缶なら157レアル（約6,800円）1m³を超えると3,000レアル（約12万9,000円）摘発件数は既に1万件を超えているという。オリンピック・パラリンピックに向けた市民の意識改革とすることで、随分と綺麗になったとのことである。
- ・治安対策とも言えるが、貧困層のスラム街であるファベラの中に、陸上トラックや水泳プール、体育館などをそろえた新しいスポーツ施設を建設した。ファベラの住民の生活環境改善やスポーツ選手発掘のためという。昨年未までに480カ所に建設済、もうすぐ500カ所を超える。ファベラは1,000カ所位とのことであるから、約半数（大きなところは殆ど建設済）に整備されることになる。
- ・広範囲で掲示板などに英語標記を行うことにしている。タクシー運転手には、英語、スペイン語の教育を行っている。
- ・大会には多くの人が雇用される。しかしながら、大会後は基本的にすべて解雇されることになる。この点を尋ねると、オリンピック・パラリンピック事業に従事した人には「ハク」が付き、次の仕事につきやすくなる、さらにオリンピック・パラリンピック開催を契機に、他の業種が活性化することが期待されるため、多くの失業者が産まれるとの懸念は持っていないとのことであった。

リオ・デ・ジャネイロの調査を終えて

リオオリンピック・パラリンピック公社のセリーナ・カンペーロ機関関係部長やグラウテル・ロシャ運営部長は、「ロンドンオリンピック・パラリンピック時と同じく、次期開催都市等のオブザーバー制度も用意されている。今後の大会運営に関して少しでも多く経験した方がいい。東京もこの制度を使って多くのスタッフをリオ・デ・ジャネイロに派遣すべきである。我々の受け入れも万全である。」と口を揃えられた。

今回の視察でみた実際の準備状況を 2020 年オリンピック・パラリンピック開催の準備に活かしていきたい。また、招致決定してすぐに実施された小学 1 年生からの英語教育開始、美化のための罰金制度、タクシー運転手への語学教育の充実など見習わなければならない点も数多く存在する。それらの施策を更に研究してゆき、2020 年オリンピック・パラリンピック大会成功への参考にしたいと、強く考えた訪問であった。